平成２８年度　花見川区民対話会議事録（要旨）

平成２８年度第１回花見川区区民対話会

花見川区の防災対策
～熊本地震から学ぶ防災対策～

日　時：平成２８年8月２７日（土）１０：００～１２：００
場　所：千葉市花見川保健福祉センター３階大会議室

１　開会
２　区長挨拶
３　講和
（１）避難所運営について～熊本地震を踏まえて～（防災対策課）
（２）熊本地震派遣職員からの報告（花見川区健康課）
４　意見交換
５　まとめ
６　閉会

≪配付資料≫
・パワーポイント資料（防災対策課）
・パワーポイント資料（花見川区健康課）
・花見川区基本データ
・大地震に備えて準備しておきましょう！
・わが家の危機管理マニュアル

１　開会

２　区長挨拶

芦ヶ谷花見川区長より挨拶。

今回のテーマは花見川区の防災対策である。今年４月の熊本地震では、死者９５名、重軽傷者２，３１４名、建物１６万戸の被害が発生している。現在でも１，０００人近い方が避難所生活を送っている。花見川区からも６名の職員を派遣し、避難所運営や、保健師による保健相談業務に従事した。

新聞報道などによると、九州地方は大きな地震は想定していなかったこともあり、避難所の運営に混乱があったようである。本市で進めている「避難所運営委員会」で

は、３日間は地域で支えることとしている。日常の訓練や運営マニュアルなどにより、いざというときに運営できる避難所でなければならない。

政府の地震調査会の発表によると、千葉市は３０年以内に震度６弱以上の地震が起きる確率が８５％となっている。主要都市で最も高い数値である。熊本地震の教訓を生かして、大地震に対する準備・対策について議論を深めていきたい。

３　講話

（１）避難所運営について～熊本地震を踏まえて～（防災対策課）

〇熊本地震への千葉市の支援

- 熊本地震は 4/14、4/16 に発生した。震度７の地震が２回連続で観測されたのは初めてであり、大きな被害が出ている。千葉市でも物資支援、職員の派遣を行っている。

〇熊本の避難所の状況

- 熊本では、多くの避難所の運営を学校の先生が行っていた。熊本は地震に対する準備が足りず、避難所運営委員会がなかったため、避難所である学校に来た避難者に対し、学校の先生が対応するという状況であった。そのため、学校が再開する際に支障があった。
- 一方、多くはないものの、地域で運営している避難所もあった。避難者からの理解・協力を得やすいため、運営は順調であった。このことから、避難所運営委員会が重要であると感じた。
- 支援物資は災害発生時には避難所に届かない。支援物資は大きな拠点に届き、そこから各避難所に配布されるが、間に市や区が入るため、時間がかかっていた。自衛隊が拠点から直接各避難所に配る役目を担ってくれたため、支援物資の配送はスムーズになったが、当初はなかなか届かなかった。家庭での備蓄が大事である。
- 不安で夜だけ来る避難者もいて、日中はガラガラ、夜は人が集まる避難所もある。車中泊をする避難者もいる。
- 建物に被害がなくても、家具が転倒して家に戻れない方もいた。家具の固定は重要である。

〇千葉市の考える避難所運営の課題

- 課題は、避難所運営主体、指定避難所以外への避難、支援物資の搬送の効率化である。
- 地域が運営する避難所の運営は良好であったため、全避難所で避難所運営委員会の必要性を認識した。
- 熊本では、避難所以外に避難する避難者も多くいた。これにより、避難者の把握が困難であるほか、車中泊によるエコノミー症候群の問題などが生じた。
- 支援物資の搬送については、蘇我のスポーツ公園を拠点に直送できるように検討している。

（２）熊本地震派遣職員からの報告（花見川区健康課）

〇熊本地震に派遣された職員から報告。

・主な活動内容は、避難所巡回や家庭訪問・電話相談である。

・水道が復旧するまで、避難所のトイレはプールの水で流していた。また公民館や市民センターは多くの方が来場することを想定していないため、紙がつまってしまう。そのため、紙は別に捨てることとなっていたが、衛生面に問題があった。

・中高生の中には、学校に通う生徒のうち、避難所生活をしているのは自分だけという方もいた。しばらくは家族のために頑張っていたが、学校に行くと周りに同じ状況の生徒がいないこともあり、心因的な反応で一時的に目が見えなくなってしまった方もいた。被災後少し過ぎた回復期に様々な症状が出る方もいて、課題であると感じた。

・高齢者には、メガネを無くした方、壊れてしまった方もいた。活動量が減って足腰が弱くなってしまう。

・小さな子供がいると落ち着いて生活できないため、他県に避難する方もいた。出産間近の妊婦への支援も課題。

・避難所に残る方は高齢者、単身者が多い。孤立しやすく、次のステップにつながらないことが課題である。

・避難所内で避難者同士が声掛けなどをしている姿が見られた。地域におけるつながりの大切さを感じた

・支援する側も被災し、疲労しているため、１つの機関だけで支えていくことは困難である。日ごろから協働することが大切である。

４　意見交換

〇意見交換を行った。

（区　長）

２つの講和をお聞きいただいたが、何かご意見、ご質問等はありますかでしょうか。犢橋高校様どうぞ。

（参加者）

現場において、避難所運営の業務にはどのようなものがあるのか。

（防災対策課）

熊本では、避難所の受付・入退所の管理、支援物資の管理、食事の配給・準備、避難所の清掃、夜間の警備に従事した。

（区　長）

他にはありますか。２２地区連協様どうぞ。

（参加者）

避難者数が１８万４千人と記載があるが、避難された区域の人口は何人くらいで

しょうか。避難者は何％くらいなのか。千葉市では２０万人で想定しているが、正しいかどうかの参考にしたい。
（防災対策課）
　手元に資料がないため把握していない。
（区　長）
　地震だけでなく、来週台風が関東を直撃するとの情報もある。いろいろな意味で防災について考えていきたい。地域で支えられるよう日頃の活動が重要であると思う。民児協様、日頃からご高齢の方と接しているかと思うが、ご意見を伺いたい。
（参加者）
　東日本大震災では多くの民生委員が亡くなった。熊本では、安否確認の疲労から亡くなった方もいた。東日本大震災では帰ってこられなかった民生委員もいる。震災時は駅前に帰宅困難者が多数いた。帰宅困難者に対する対応を聞いてみたい。
（区　長）
　ＪＲ様、帰宅困難者への対応について、何かございますか。
（参加者）
　トイレを含め、駅構内を開放する。水が止まってしまうことを想定し、簡易トイレも用意している。限りはあるが飲料水も用意している。
（区　長）
　朝日ケ丘サニータウン様、防災の関係でご意見等はありますか。
（参加者）
　２２２世帯の自治会であるが、５割以上が高齢者である。２０１５年に防災組織を設立したが、自治会役員を兼務し、毎年交代しているため、機能するか不安がある。熊本地震のときも、ボランティアが活躍したため、今年防災規定を改定し、介護や栄養士などの資格がある方は登録をお願いする旨規約に入れたが、どう集めるかが難しい。いろいろな方を巻き込んでいくことが大事であると考えている。また、安否確認を年に３回行うこととした。その際、「無事ですフラッグ」を出してもらうこととしているが、出さなかった家には理由も聞く予定である。９月４日に畑小学校において防災訓練を行う。備蓄物資や施設の点検、物資の確認を行う予定である。
（区　長）
　運営マニュアル等を作成するなど、先進的な取り組みを行っている２２地区連協様から取り組み状況などをご教示いただきたい。
（参加者）
　熊本は危機意識が足りず準備不足であった。そのために混乱が起こった。震災の記憶は忘れやすいが、将来必ず起こる。熊本では公助、役所がやってくれるという感覚だったと思うが、自助・共助が大切である。そのために避難所運営委員会を作っているが、何百人という会員全員に徹底させるのは難しい。そこで、次の３点だけ徹底することとしている。

①自分の避難場所はどこか。
②避難所までの避難ルート。
③携行品。３日分の食料やその他身の回りのもの。
また、避難訓練では、数十人単位ではダメであると思う。動員数を増やして、百人単位で体育館に入れるかどうかを確認する必要がある。そうすれば問題点が出てくる。
（区　長）
障害者の避難所での配慮について、ステップちば様からお話を伺いたい。
（参加者）
障害者といっても、身体障害、知的障害、精神障害でそれぞれ違う。障害のある方は、お話しても理解できるとは限らない。どのようにして避難所の状況やルールを伝えるかが大切である。こちら社会福祉法人栗の木は拠点的福祉避難所になっている。避難所でうまく対応できない、配慮が必要な方が指定される避難所であるが、受け入れられる人数に限りがある。また、知的障害の方や身体障害の方への対応は弱い部分がある。配慮が必要な方が避難する場所を増やす必要があると思う。
（区　長）
高齢福祉について様々な取り組みを行っているあんしんケアセンター様からご意見を伺いたい。
（参加者）
今月、多職種連携会議を行い、医者や行政、様々な事業者が集まり、災害への備えをテーマに意見交換を行った。その際に、花見川区のご担当者から説明をいただいたが、防災対策のキーワードは、自助・共助・公助である。公助である災害対策本部が機能するには時間がかかる。業務の継続計画の策定、ガイドラインができているが、これが大事であると東日本大震災以降言われている。計画停電の経験をもとに、一般的な防災訓練ではなく、災害が起きたことを想定し、体験訓練もやっている。自身で動けない方をどう守るか、地域の住民をどう受け入れるかなど、細部の策定をしなければならないと考えている。また、水の確保のため、敷地内に井戸を掘削しているが、災害があったときに職員が使いこなせないと意味がないため訓練も行っている。備蓄品も不足することを予想している。
（区　長）
当区の中心には花見川が流れている。水害等について、水資源機構様からお話を伺いたい。
（参加者）
事務所は花見川の上流にある。大雨の際には、大和田機場を運転し、放流している。放流前には花見川沿いにある警報装置でサイレンと放送を流し、花見川には近づかないようアナウンスしている。防災と花見川の関連でいうと、花見川は印旛放水路であり、印旛沼から放水するために作られた人工水路である。年に２、３回放水している。花見川の管理は千葉県である。大和田機場と天戸と長作にある水門の

操作及び施設の維持管理、放水時の警報の管理を行っている。地震防災に関連することでいうと、水機構は全国各地にあり、国からの災害支援・復旧の指定機関に指定されていて、各事務所には地域との連携窓口がある。全国各地に排水ポンプ車、海水を飲み水に換える浄化装置、パイプ・バルブ関係の資機材を備蓄している。熊本は地下水が多いが、くみ上げる装置が被災して、飲み水が足りなくなり、浄化装置を派遣した。風水害で言えば、排水ポンプ車を用意している。そういったものを派遣できる体制を整えている。

（区　長）

来週は台風が来るが、大丈夫か。

（参加者）

印旛沼の洪水時排水はフル運転で毎秒１２０トンを流すことができるため、十分対応できる。

（参加者）

花見川には支流があるが、毎秒１２０トン流すと支流の水位が上がり浸水してしまう。実際に数年前、そういった浸水があった。コントロールして放水してほしい。

（参加者）

水位を見て放水している。平成２５年の台風は、排水能力を超える規模の豪雨だった。

（区　長）

先般、宿泊訓練をされた花島コミュニティセンター避難所運営員会様からお話を伺いたい。

（参加者）

７月３０日から３１日に参加者２０名で避難所体験訓練を行った。午後８時に避難者が集合し、避難者カードの記入や備蓄品の確認、公園のパトロールを行った。訓練の目的は主に照明の状況の確認であったが、予想以上に避難所の環境が厳しいとの意見があった。段ボールやブルーシート、カセットコンロなどを備蓄しておく必要がある。非常用発電機の燃料切れを防ぐため、出力を減らし、長持ちさせることを検討していきたい。

５　まとめ

（区　長）

〇本日の議論をまとめると次のとおりである。

・災害に対しては、事前の備え、災害時の対応、一定期間経過後の対応と、それぞれについて考えておく必要がある。

（事前の備え）

ア　家具の固定、３日間の食料の備蓄、家族との連絡手段の確保について、日頃から準備しておく。

イ　避難所運営員会など、地域で支える仕組みを作り、また、災害時に近い状

態で訓練しておく。

（災害時の対応）

ア　障害者や高齢者、ペットを連れている方など、様々な方の受け入れ

（一定期間経過後の対応）

ア　避難者の様々なニーズへの対応

イ　避難所生活が長くなったときの心のケア

・資料「大地震に備えて準備しておきましょう！」として、危機管理マニュアルに記載されているもののうち、事前の備えについてまとめている。これらのポイントについて、日頃から各自で備えるとともに、地域で防災対策に取り組む必要がある。

６　閉会